

第2回 東京都AI戦略会議

令和7年2月6日

東京都 デジタルサービス局

本日の流れ

01 開会 P.3

- ・ 各委員ご紹介
- ・ 宮坂副知事挨拶

02 討議 P.7

- ① AI戦略策定に向けた論点
- ② 都庁AI活用・開発4原則

03 閉会 P.28

- ・ 今後の進め方

各委員ご紹介

委員

氏 名	役 職 等
松尾 豊氏	東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻 教授
安野貴博氏	合同会社機械経営 代表
石角友愛氏	・パロアルトインサイトCEO ・一般社団法人人工知能学会理事
伊藤 錬氏	Sakana AI株式会社共同創業者 COO
江間有沙氏	・東京大学国際高等研究所東京カレッジ准教授 ・理化学研究所 革新知能統合研究センター 客員研究員
岡田 淳氏	森・濱田松本法律事務所外国法共同事業弁護士
村上明子氏	損害保険ジャパン株式会社 執行役員・最高データ責任者

東京都・GovTech東京

氏 名	役 職 等
宮坂 学	東京都副知事・CIO、GovTech東京理事長
山田 忠輝	東京都デジタルサービス局長
井原 正博	GovTech東京業務執行理事・CTO

宮坂副知事 挨拶

2025年1月31日発表「シン・トセイX（案）」より抜粋

リーディング・プロジェクトで全庁の「政策DX」を牽引^{けん}

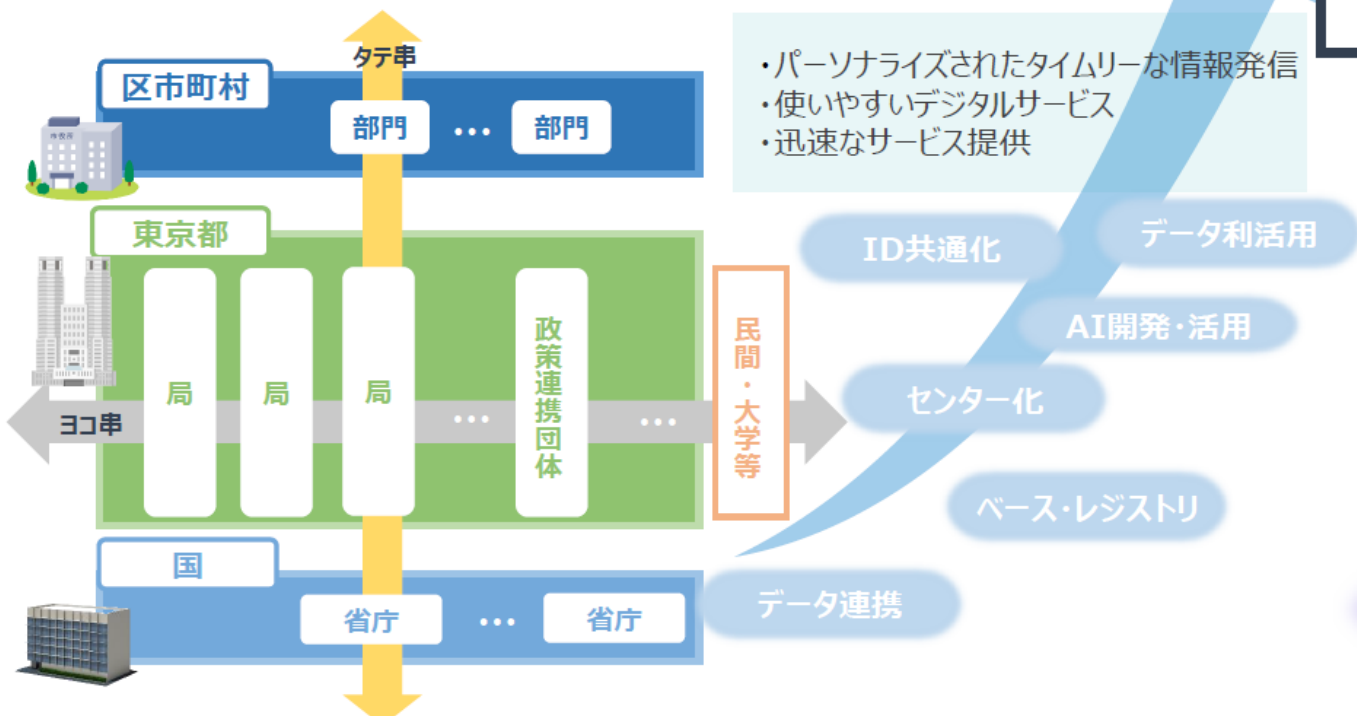
- ✓ 都民がQOSの向上を実感できるよう、国や都・区市町村で分かれている手順やサービスを、自治体の枠を越え連携し展開することが重要
 - ✓ よりイノベティブな業務や、都民へのサービス提供に注力できるよう、業務自体の見直しやBPR※をより大きい単位で進めることが不可欠
- ➡ このリーディング・プロジェクトから全庁の政策DXを牽引^{けん}し、都政のQOS向上に向け、BPX※を進め、デジタル三原則を実現
サービスの質を向上するとともに、都民や事業者、職員の「手取り時間」を増やしていく

BPRからBPXへ

都庁内の局と局、国や区市町村といった組織の壁を越える
業務改革（BPX）を、DXの力で実現

※ BPR：Business Process Re-engineeringの略。業務プロセスの最適化

※ BPX：Business Process Transformationの略。組織を越えた業務の変革・改善を企図



デジタル三原則の実現

デジタルファースト（今すぐ）
ワンスオンリー（1回で）
コネクテッド・ワンストップ（1か所で）



都民・事業者等が
都政のQOSを実感

政策DXリーディング・プロジェクト

分野	主な取組事項	主な事業
こども	子供に対するサポート	中高生Webサイト（仮称）の構築 等
	子育て支援	こどもDXベストプラクティス創出事業 等
教育	教育DX	都立学校における生成AIの活用 等
福祉・医療	医療DX	医療機関診療情報デジタル推進事業 等
	高齢者見守り強化	高齢者の地域見守り拠点等整備促進事業
防災	災害情報一元化	DIS（東京都災害情報システム）の再構築
まちづくり	地理空間データ活用環境整備	都市のデジタルツインの実現 等
環境	産業廃棄物関連 手続等のDX	産業廃棄物関連手続・情報管理等のDX推進
産業	AIを活用した 補助金審査	業務プロセス最適化（BPR）推進事業

中長期的な取組

3年後、5年後、10年後を視野に
技術の進展を踏まえて、
各分野において
どのような取組へ展開して
いくことができるか、
国内外の先進事例等も参考に
ご議論いただきたい。

※「政策DX」：政策にデジタルの力やAIなど先端技術を最大限活用【DX】することで
社会課題の解決に導く取組
（太字＝AI活用事業）

AI戦略策定に向けた論点

AI戦略に向けた論点（基本的考え方）

I AI行政活用の「ジャパンモデル」をつくる

- ・都市レベルで、総合的なAI活用に取り組んでいる事例は世界的にもまだ少ないうえ、区市町村も含め東京が抱えるAI活用の課題は、全国どの自治体にも共通
- ・東京のチャレンジは、その取組のプロセスも含めて共有することが、日本全体の課題解決に貢献
- ・AI導入・活用のノウハウやナレッジは、AI行政活用の「ジャパンモデル」として、全国の自治体、さらに世界に広く共有

II 3つの視点から戦略的に取組を推進。それを支えるガバナンスやルールを確立

1

AIを「つかう力」

行政におけるAI開発力を高めるとともに、行政での活用が効果的な分野での活用・サービス変革を推進

2

AIで「聴く力」

行政のデジタルサービス広報・フロントサービスの仕組を充実させ、都民のコミュニケーションを高度化

3

AIを「つくる力」

東京、ひいては日本全体のAI開発力を底上げするため、都としてAI産業・基礎研究等に貢献

責任あるAI

都民の信頼と安心を得られるAI活用に向け、自治体におけるAIガバナンス、ルールを確立する

AI戦略に向けた論点（全体像）

- ・第1回の会議において都からの問題提起に対して頂戴した委員の皆様からのご意見を論点として整理
- ・第2回の会議では、論点をもとに議論を深めていただき、AI戦略（案）に反映

		都からの問題提起	論点
AIの3つの力	「つかう力」	・進化を続けるAIの可能性を見据え、行政においてどのような分野で活用を進めるべきか	・フロントサービス（都民サービス）での活用 ・バックオフィス（各種審査業務等）での活用 ・使いこなすためのAIリテラシー
		・行政においてAIを活用する上でどのような点に留意すべきか	・中小企業の「つかう力」
		・行政におけるAI開発力を向上させるためには、どのような取組が有効か ・都がGovTech東京とともに、オール東京での活用を目指して構築中の生成AIプラットフォームを利用した取組はどう進めていくべきか	・生成AIプラットフォームの発展 ・全国自治体への展開
	「聴く力」	・都民の意見を収集・分析し、広聴を高度化する上で、生成AIにはどのような活用可能性があるか。留意すべき点はなにか	・最適な手法の確立 ・デジタル広聴におけるリスクへの向き合い方
		・都民からの問い合わせなどのフロントサービスにAIを活用することは有効か	・次世代チャットボット ・コンタクトセンター
	「つくる力」	・東京、ひいては日本のAI産業を発展させるため、都としてどのような取組ができるか	・データセンター ・海外ビッグテックとの交流 ・世界のAI人材・企業等への東京の魅力発信 ・人材育成
・日本のAI開発力を向上させるためにはどのような人材育成や気運醸成が有効か		・民間のAI活用に向けた都としてのデータ政策 ・AI開発の気運醸成	
責任あるAI		・都民の信頼と安心を得られるAI活用の実現に向けてどのように取り組むべきか	・ガバナンス・ルールの整備 ・定期的なレビュー

【都の課題提起】

進化を続けるAIの可能性を見据え、行政においてどのような分野で活用を進めるべきか

《各委員からのご意見》

- ・医療・教育・交通の分野は、**行政ならではの本質的な効率化**が求められる領域でAIを使う重要性は高い。都はより現場に近いため、例えば、教育分野であれば現場の教員の声、ニーズ、課題、子供の声をよりよく吸い上げることができるのが強み
- ・**補助金のスコアリング等の審査業務にAIを導入すると煩雑な行政手続の迅速化**につながる。
- ・業務効率だけでなく**都民サービス分野でAI活用のユースケースを生み出す**ことが必要
- ・今の最先端のAIがどこまで行政の業務に実装できるかを探るうえでは、現在の最先端技術を用いた活用事例を参考にすることも有効
- ・効果の高い活用にはプライバシーの問題も含めて懸念は当然出てきうるが、多少懸念があるからと言って全く前に進めないと、活用可能性が失われかねない。活用に当たっては都民への影響も踏まえ、**小さいプロジェクトから始める**など、試行錯誤しながら前に進めて、**うまく両立**させていくことが重要
- ・AIの力に頼れるところとそうでないところについて、**情報リテラシー教育の一環として教えられる**と良い。**子供のころからAIを知る機会がある**ことが重要
- ・利用者としてAIをどう使うかというリテラシーの観点は非常に大切。高齢者を含めた全ての人のリテラシーを高めるためには、自治体の発信力が重要になってくる。

【フロントサービス（都民サービス）での活用】

- ・ **こども・医療・教育**など政策DXの各分野で、AIを重点的に活用したいと考えるが、何をすべきか。
- ・ 中長期的に、マルチモーダルAIやAIエージェント等の**最新技術を用いた高度な都民サービス提供**が可能になると想定するが、**行政分野においてどのような活用事例**が考えられるか。
- ・ 短中期的に、医療や教育などRAG技術を用いた回答生成で都民の相談に直接答えられるサービスの実現を目標としているが、多様な都民に対応しつつ、行政に求められる公平性や無謬性のバランスを取りながら、社会に受容されるサービスを創出するためには、どのような留意点があるか。
→なお、来年度、子供や保護者が気軽に相談できるチャット相談事業において、「AIチャットボットの活用」や「相談相手のレコメンドでのAI活用」に加え、「生成AIの導入検証」を予定している。

【バックオフィス（各種審査業務等）での活用】

- ・ 短期的に、**客観指標に基づく各種審査**へAIを活用することで**処理の迅速化を全庁で実現**していくことを考えているが、どのような進め方が効果的か。
- ・ 次の段階として、**不定形な情報(状況説明、画像等)の分析・判断を要する審査業務にも適用を拡大**していきたいが、**技術面及び運用面でどのような課題や留意点**があるか。

【使いこなすためのAIリテラシー】

- ・ AIを「つかう」能力を養う上で、**子どものうちからAIによる誤回答やAI生成物か否かを見分ける力、アンコンシャスバイアスを避ける力**等の理解も重要であり、**学校現場のための指導教材やプログラムが必要**と考えるが、その実現のためにはどのように進めるのがよいか。
- ・ **AI活用に対する都民のリテラシー向上や信頼感・安心感を確保**するためどのようなアプローチが考えられるか。

【都の課題提起】

行政においてAIを活用する上で、どのような点に留意すべきか

《各委員からのご意見》

- ・ 専門性の維持、若手の能力・リテラシー向上にAIを使うなど、**人とAIとの関係性を考えどのように使っていくのか、目的と方法を併せて議論することがAIをうまく使っていくことにつながる。**
- ・ ユーザーがセキュリティやプライバシーに関して正しく判断できるような**わかりやすいUIなどデザインを考えていくことが大事**
- ・ AIで対応できる部分を進めつつ、効率化で生まれた余剰人員を特別な手当が必要な方へ振り分けるなどの使い分けが必要
- ・ **中小企業が取り残されないユニバーサルなAI活用**の議論になると良い。**中小企業でのAI導入の実績を行政が評価する施策を作れば、中小企業のAI活用も進み、行政がそれを取り入れる可能性にも繋がる。**

論 点

【AIシステムのUI】

AIを用いたシステムを構築するに当たっては、ユーザーにとって、操作法のみならず**データの取り扱いやプロンプトの内容等がわかりやすいシステム**を目指していきたいが、どのような仕組みで担保していくことが必要か。

【中小企業の「つかう力」】

社会全体で**AI活用の裾野を広げていく**ためには、**中小企業のAIを「つかう力」をサポートしていくことが必要だが、どのように進めるべきか。どのような課題・留意点があるか。**

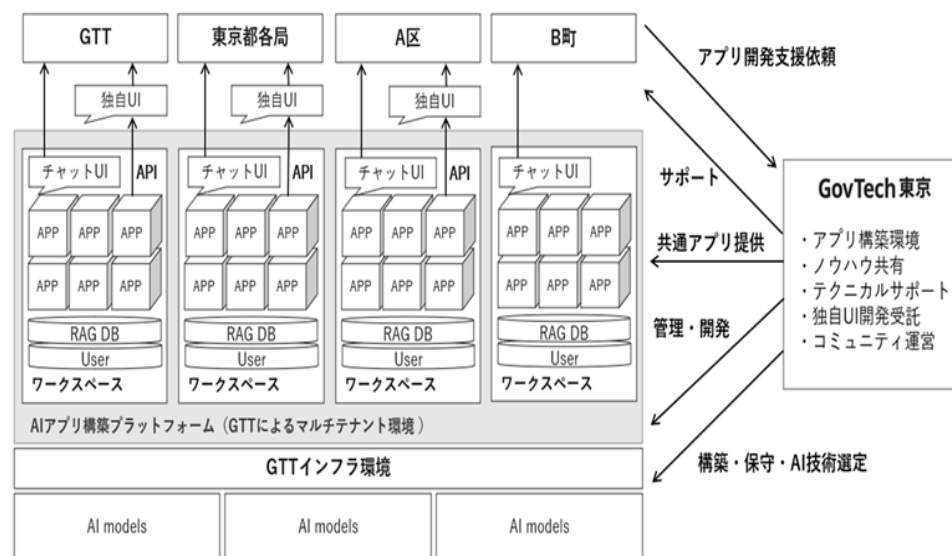
【都の課題提起】

- ・ 行政におけるAI開発力を向上させるためには、どのような取組が有効か
- ・ 都がGovTech東京とともに、オール東京での活用を目指して構築中の生成AIプラットフォームを利用した取組はどう進めていくべきか

《各委員からのご意見》

- ・ シリコンバレーのレベルが高い理由は、**レベルが高いAIユーザーが多数存在**するため。日本のAI開発力のレベルを上げるには、たくさん使って利用者がいいものを評価できるよう経験値をあげることが必要
- ・ AI活用を進める上では、抽象論ではなく**現場感をもって具体的な技術に根差したアーキテクチャ図をまず描く**ことが重要
- ・ このアーキテクチャは、**サーバーの構造がマルチテナンシー**となっており、**情報がアプリごとに保護されつつ構造が汎用性**を持っている点がよい
- ・ 自治体は色々なニーズが共通しており、**多くの自治体を早くから巻き込む**ことで良いシステムを作れる可能性があるため、**区市町村が開発の早い段階から参加できる仕組み**を示した方がよい。
- ・ **AI分野は変化が早いのでアジリティが重要**。行政では1年先の予算執行を待たないといけいないので変化し続けることを前提とした準備ができるといいのではないか。

GovTech東京が構築中の生成AIプラットフォーム（アーキテクチャー）



【生成AIプラットフォームの発展】

- ・生成AIプラットフォームを用いた**業務アプリの回答精度を高めていくために、RAGデータベースのあり方**などにどのように対応していくべきか。
- ・職員が**アジャイルに業務アプリを内製することが当たり前**の都庁を早期に実現したいと考えるが、取組の浸透・拡充に向けて、どのように進めるのが効果的か。
- ・AIアプリの高度化や応用範囲の広がりに鑑みると、**アプリの内製と外注との効果的なバランス**についてどのように考えるべきか。
- ・急速に発展するAI技術を見据えて、**生成AIプラットフォームの機能をどのように発展**させていくべきか。

【全国自治体への展開】

- ・都が自治体に共通する課題の解決に向けた業務アプリを開発するに当たり、「**車輪の再発明**」を防止するためにどのように進めるべきか。
- ・都の生成AIプラットフォームを活用し、**区市町村の職員がアプリの内製**で業務効率化を進められるよう**どのような支援が効果的**か。
- ・全国自治体で効果的に活用できる業務アプリを**オープンソースにすることなどによりジャパンモデルとして提供**していきたいが、開発に当たりどのような点に留意すべきか
- ・都の経験やノウハウを規模や環境の異なる全国自治体の参考として活用してもらうために、どのような取組を進めるべきか。

【都の課題提起】

都民の意見を収集・分析し、広聴を高度化する上で、生成AIにはどのような活用可能性があるか。
また、留意すべき点はなにか

《各委員からのご意見》

- ・ AIは様々な意見を集約して全体像が分かるように描くことに使える可能性が高い。
- ・ データの取扱いやAIが持つバイアスについては議論が必要
- ・ バイアスへの初手の解決策として、データ処理過程をオープンにする、プロンプトの透明性を高めることが考えられる。

論 点

【最適な手法の確立】

- ・ 都の新たな長期計画策定で活用したブロードリスニングをはじめとしたデジタル広聴の手法を、自治体の意見募集等で汎用モデルとして活用されるためには、今後どのような取組が必要か。
- ・ リアルタイムにSNS等からの都民意見を集約・分析し、都民サービス向上に活用することを目指す場合、どのようなことに留意すべきか。

【デジタル広聴におけるリスクへの向き合い方】

デジタル広聴におけるデータの取り扱いやバイアス等のリスクも踏まえつつ、有効な手段として積極的な活用を図っていきたいと考えているが、どのようにリスクに向き合うべきか。また、どのようなことに留意すべきか。

【都の課題提起】

都民からの問合せなどのフロントサービスにAIを活用することは有効か

《各委員からのご意見》

- ・ AIを活用することで効率よく意見を収集・分析することができ、関係のない意見等の分別も自動的に行うことで、職員の時間的・精神的負担も軽減
- ・ NYでは市民の意見をAIで集約し市政に反映させる仕組みがあり、職員の負担軽減にも寄与

論 点

【次世代チャットボット】

AI技術の発展を踏まえ、広範な分野にわたる都政全般を対象に、都民からの様々な質問に正確に回答することができる次世代チャットボットを実現したいと考えるが、実現目標をどの位に設定すべきか。

【コンタクトセンター】

広範な都民サービスをカバーし、電話、ホームページ、アプリ、メール、SNS等多様なチャネルで寄せられる都民意見・要望に24時間365日、柔軟かつ的確に回答・対応できるコンタクトセンターの導入の検討を、どのように進めるべきか。また、都民の受容性などどのような点に配慮するべきか。

【都の課題提起】

東京、ひいては日本のAI産業を発展させるため、都としてどのような取組ができるか

《各委員からのご意見》

- ・世界のトップAI人材は、シリコンバレーだけに目が向いているのではなく、面白いことをやれる場所をグローバルに求めている。その意味で、東京は彼らを呼び込むポテンシャルがある。
- ・世界のAI人材を集めたいのであれば、「最先端で面白そうなのが東京都ではできる。」といったことをエンジニアにリーチできるような手法で情報発信していくべき。
- ・海外のAIスタートアップやビッグテックとのコミュニケーションを取り、東京で海外のAI開発におけるトッププレイヤーを事業展開したり、研究拠点を置いてもらえれば、東京の研究・開発レベルを上げることもつながる。
- ・東京には魅力があるのでいったん来て貰えれば、名前の通っているエンジニアを東京の虜にできるのでは。
- ・先進的なサービスを、企業とともに行政が育てる産業支援策があるとよい。
- ・データリテラシーなどは大学等の高等教育で学ぶべき。また、AIスタートアップを増やすには、アクセラレータの充実が必要。大学がSU輩出を後押しすれば日本でもSUを増やすことができるのでは。



【データセンター】

AI産業の発展を見据え、**データセンター**に都はどう向き合うべきか。

【海外ビッグテックとの交流】

海外ビッグテックとの交流を活性化し、**強固なパイプを築く**ことで、トップ人材・企業・研究拠点等を誘致するために、**どのようなアクション**を起こすのが有効か。また、**どのようなことに留意**すべきか。

【世界のAI人材・企業等への東京の魅力発信】

- ・ **海外のAI人材やテック企業を惹きつける**ためどのような取組が必要か。
 - ・ 次世代のAIを担う**海外の大学生・研究者を、東京に呼び込むための支援策**や**海外の大学に対するアプローチ**をどう進めるべきか。
-

【人材育成】

- ・ **大学におけるAIスタートアップ創出を支援**するため、**大学との連携や都としての支援を強化**していきたいと考えるが、**どのような取組**が有効か。
- ・ 大学や高専、研究機関等において**AIの開発や活用を促進する人材を育成**するため、**AIに関する教育プログラムを充実させる**こと等が有効と考えるが、**効果的な内容や方法**としてどのようなことが考えられるか。また、参考となる国内外の事例はあるか。

【都の課題提起】

日本のAI開発力を向上させるためにはどのような人材育成や気運醸成が有効か

《各委員からのご意見》

- ・ AIとデータは密接に関連するので、**AIとの関係もふまえたデータ政策**という観点があってもよいのではないか。都としてAIやデータの利活用を通じて実践、貢献できる点はないか。
- ・ アメリカで行われている社会課題解決のための**AIソリューションを考えるハッカソン**も参考に、広くパブリックを巻き込みながら取組を進めていくことが重要

論 点

【民間のAI活用に向けた都としてのデータ政策】

- ・ 民間事業者が行政の保有するデータを活用し、AIを活用した新たなサービスを生み出せるよう都としてデータ整備・提供等に取り組んでいく必要があるが、どのような取組が有効か。その際の留意点はあるか。

【AI開発の気運醸成】

- ・ AIエンジニアの開発意欲が高まる**アイデアソン**や**ハッカソン**を開催することが有効と考えるが、**エンジニアに刺さる内容や手法**はどのようなものがあるか。
- ・ 社会的課題に対しての**AIソリューションを考えるハッカソン**を開催し、**AIエンジニアやスタートアップ企業等を巻き込んでいく**ためには、どのように進めるのが効果的か。
- ・ ハッカソンで生み出された**アイデアやプロトタイプ**を**社会課題の具体的な解決に活用**するために、効果的な手法や参考となる事例はあるか。

【都の課題提起】

都民の信頼と安心を得られるAI活用の実現に向けてどのように取り組むべきか

《各委員からのご意見》

- ・ **AIを使おうとしている分野**がハイリスクな領域なのか**見極めが重要**。何がハイリスクでどうAIを使っていくのか、業務を洗い出し、吟味してルールを作っていくことが重要
- ・ 「やり過ぎでもやらなさ過ぎでもない」をどうやって制度上担保していくかが課題
- ・ **ガバナンス・ルールの確立は重要**。うまく設計しないと過剰規制あるいは過少規制になってしまう
- ・ ガバナンス・ルールを確立するだけでなく、**確立後に更新し続けるアジャイル・ガバナンス**が重要。それを可能とする体制・仕組みを作るとジャパンモデルとなる事例が作れる
- ・ 世界ではルール作りの議論の活発化が予測。都も**カリフォルニア州での議論などを参考として活用してほしい**。
- ・ 日々変化するAIに**どのように信頼性、安全性を担保していくのか**は国際的な議論になっている。
- ・ クリティカルなリスクと許容できるリスクの高低や発生確率の肌感覚を持つことが重要。それには事例を積み重ね、**人の目を通して経験値・集合知を増やしていく**ことが必要
- ・ 都のサービスを大括りでグルーピングして**リスクを整理し、基準を作成**すると良い。実現可能性が高い分野から、わかりやすい目に見えるリスクを避けるといった基準から始めてはどうか。
- ・ 都民のプライバシーやセキュリティに関わるものや、行政処分に関する意思決定等についてレスポンシブルのみならず**アカウンタブルの部分**を議論していくことが重要
- ・ 専門家からの意見を踏まえ、**活用倫理を検証しながら進められる方策**を検討すべき

【ガバナンス・ルールの整備】

- ・ AI活用の信頼性、安全性を担保していくため、ガバナンス・ルールを早急に整備する必要があるが、EU、アメリカなど各国のAI規制に対する姿勢が分かれる中、**利用と規制のバランスをどのようにとるべきか。**
- ・ 都はAI倫理ガイドライン（仮称）等の**ルールの整備やガバナンス体制を、生成AIプラットフォーム供用開始予定の来年度後半までに整備する予定**であるが、どのような点に留意する必要があるか。
- ・ ルールの整備に当たっては、**サービス利用に伴うリスクの度合い**に応じ、業務をグルーピングし、対応していくべき。線引きとして、「**都民の生命、健康、財産等に重大な影響を及ぼす事業**」と「そうでない事業」、また利用データに関して「**数値化・客観化できるもの**」と「数値化しにくいもの」の区分の他に、どのような基準・観点があるか。
- ・ 整備したルールは、**中立的な組織がチェック機能を果たす**ことが必要であるが、どのような組織・機能とするべきか。

【定期的なレビュー】

- ・ 定めたルールは**定期的なレビューによりアジャイルに見直すべき**と考えるが、時期や頻度など、留意すべき点は何か。
- ・ 都庁各局におけるAIのプロンプトや利用データなどについても**レビューすべき**と考えるが、どのような課題や留意点があるか。

都庁AI活用・開発 4 原則

都庁AI活用・開発4原則（案）

修正案	原案（第1回会議）
原則1 デジタルサービス局が全庁のAIに係る取組を統括する ・デジタルサービス局が全庁のAI活用・開発の取組を統括 ・各局が事業を登録し、デジタルサービス局が企画段階から関与、全庁の整合性を確保	原則1 デジタルサービス局が全庁の取組を統括する ・デジタルサービス局が全庁のAI活用・開発の取組を統括 ・各局が事業等を登録し、デジタルサービス局が企画段階から関与、全庁の整合性を確保
原則2 AIツールは共通の業務には共通のものを活用する ・各局共通業務のためにAIツールを調達する場合、共通化できるものはデジタルサービス局で製品を選定・一括調達し提供	原則2 AIツールは全庁で共通のものを活用する ・各局共通業務に既存AIツールを活用する場合は、デジタルサービス局で製品を選定・一括調達し提供

修正案	原案（第1回会議）
原則3 AIアプリケーションは全庁での活用を見据えて開発する - 各局が開発する「AIアプリ」であって全庁での活用が見込まれるものは、将来の共通利用を見据えて開発 「生成AIアプリ」は、GovTech東京が構築した生成AIプラットフォームを活用した内製を基本 - 都が内製開発する「AIアプリ」の著作権は都が保有 - 既存のAIツールを組み込んだシステム開発においても、可能な範囲で都が著作権を保有 - 都が開発した「AIアプリ」は、都庁グループや他自治体への提供を目指す	原則3 アプリケーションは全庁展開を前提に開発する - 各局で業務アプリを開発する場合、全庁での共通化を見据えた仕様で開発 - 特定製品への依存は可能な限り回避 - GovTech東京が構築した生成AIプラットフォームを活用した内製を基本 - 都が内製開発する業務アプリケーションの著作権は都が保有 - 外部委託を活用する開発においても、契約により都が保有する著作権を明確化 - 都開発の業務アプリケーションは、都庁グループや他自治体への提供を目指す

修正案	原案（第1回会議）
原則4 AIガバナンス・ルールを徹底する ・「責任あるAI」の観点から、全庁ルール等を整備し、ガバナンスを確保 ・AIが学習・参照するデータの取扱いには、個人情報保護・アンコンシャスバイアス等に十分配慮するとともに透明性を確保 ・各局は全庁ルールに基づき、AI活用に伴うリスクや学習データ等の自己点検を実施 ・デジタルサービス局にAIガバナンス機能を設け、専門家の定期的レビューを受けながら知見を蓄積し、活用上の様々な課題に対応するとともに、ルール等はアジャイルに見直す	原則4 AIガバナンス・ルールを徹底する ・「責任あるAI」の観点から、全庁ルール等を整備し、ガバナンスを確保 ・AIが学習・参照するデータの取扱いには、個人情報保護・アンコンシャスバイアス等に十分配慮

今後の進め方

第2回戦略会議の開催

AI戦略に向けた論点整理の公表

AI戦略案の作成

第3回戦略会議の開催

※ 以降、会議を随時開催し、ご意見を聴取（予定）

R7年夏頃を目途に「東京都AI戦略」を策定・公表